教育目標
○自ら学ぶ生徒
○自他を思いやる生徒
○健康でたくましい生徒

学校だより
ひらく

第２４号
平成２７年１２月１４日発行
須賀川市立第三中学校
ＴＥＬ　７３－２３７７
発行責任者：校長　高崎則行

面接に臨む生徒の本気・・・

１２月７日（月）の朝、校門でほぼ全員の登校が完了したのを見届けた後、校庭のバックネット裏の側溝に落ち葉がたまって水はけが悪くなっているころだろうと思って、そちらに移動しました。熊手を使って落ち葉かきをしていると、８時２５分を過ぎたころ二人の男子生徒がこちらに走ってくるのが目に入りました。野球部の生徒が替わってやりに来たのだろうかと想像して、
「１時間目の授業が間もなく始まるというのに、顧問の先生に言われたのかな。よく見つけたな。」
と思ったらそうではなくて、息を切らしながら、
「校長先生、今日の面接練習よろしくお願いします。」
この日の私立高校受験の面接練習の生徒でした。放課後練習なのに、朝一番であいさつに来たのでした。

１２月中に約７０名の生徒の面接練習を実施します。学年教師、学年主任、教務主任、教頭と何度も練習しているので、私のところに来た時には、どの生徒も非常に立派な受け答えができるようになっています。小・中学校９年間の出口での子どもたちが置かれた状況を理解するために、第三小学校の麻生校長先生も練習に立ち会い、その出来栄えに驚いていたくらいです。もちろん、人生の最初の岐路に立って、どの生徒も今までで一番の本気度を発揮しています。本気を出すと生徒はこんなに成長できるんだと改めて確認させられます。もっと早い時期から本気を出してほしいなと欲が顔を出してしまうのは教師の性（さが）、これは親御さんも同じでしょうか。

ここからは必見（自分で言うのもなんですが）

しかし、これだけは私の欲目でも、教師の性でもありません。十分に考えて言葉にした「将来の目標」や「志願理由」、「その実現を目指そうとする強い決意」は、受験対策であってはならず、それぞれの生徒の「高い志」として貫いてほしいということです。

かつて稲田中学校の校長時代に、当時の須賀川高校　阪路　裕（さかじ　ひろし）校長先生の「岩瀬の子どもたちをもっと輝かせたい」という考えに共鳴して、保護者の方に「高校生活をどう送らせるか」というテーマでお話しいただいたことがあります。結論だけ紹介しますと、まず「高校卒業時の成否のカギを握るのは、高校１年生を無為に過ごすのか、そうでないのか。」だということです。今、それぞれの生徒が固めた将来の目標や高校生活への決意、これを高校１年生の過ごし方に直結させてほしいと思います。また、阪路先生は、次の点を強調されました。

① 大学進学希望者は、職業選択を前提にどういう学部（学科）を受験するかを判断する。
② 就職希望者は、どういう職種に就きたいのかをしっかり判断する。
③ 人間関係など、授業以外で獲得する力も非常に重要になる。

高校卒業後の就職者のうち３年以内に辞めてしまった人の割合（離職率）は５０パーセントを超え、辞めた理由は「自分の考えていた仕事ではなかった」や「職場の人とうまくやっていけなかった」が多いのだと言います。上記３点を強調されたのも、うなずけます。

将来の夢や希望は変わってもいい。しかし、夢や希望を思い描くことをしないで無為に過ごしてはならない。「あきらめなければ、夢は必ずかなう。」というのは、そういう考え方のできる人には真実になるのではないでしょうか。

「いじめなんて、くだらないよね。」と言える人を育てる

１２月４日（金）、仙台市で開催された「いじめ防止研修会」（宮城教育大学主催）に参加させていただきました。「ネットいじめや『ケータイ（スマホ）問題』に関する教師の知識の現状把握」という講演があり、今対応しなくてはならない事態が発生中だからではありませんが、発生を未然に防いだり、万一発生したりした場合に適切に対応できるか、自分にとっても学校としても重大かつ緊急の課題だと考えていたので、格好の機会だと思ったからです。

学んだことで、皆さんと共有したいのは次の２点です。

① 予防策は、積極的な教育が大切。

「加害の幸福」と言い、人間は、他人を辱めたりおとしめたりして喜ぶ性質を生まれながらに持っている。教育しなければ、この本性をただすことはできない。小さいうちから家庭や地域、学校等で人としての生き方を考えさせ、「いじめなんて、くだらないよね。」と言えるように育てていかなければならない。

② 加害行為に対する社会的非難や社会的制裁の大きさを教える。

インターネットは完全匿名ではなく発信者は特定される。いつまで、どこまで広がるか分からないので、基本的に大事（おおごと）にしないで済ませられる問題ではない。

大人のいじめ対応姿勢５か条

1　いじめられっ子に非なし
（どんな場合でもいじめられっ子に寄り添う）

2　周辺こそがいじめの元凶
（いじめる子よりも周りの子への働きかけが大切）

3　昨日と違うちょっとした様子こそ発見の決め手
（深刻な時ほど子どもは訴えないので、それに気づく感受性が必要）

4　いじめの輪から新たな輪へ
（既存の集団と異なる新しい集団や世界を提供する）

5　いじめっ子だって泣いている
（いじめっ子の抱えるストレスにも目を向けて）

なお、講師の鳴門教育大学　阪根健二研究室が開発した、小学校・中学校・高校まで学年段階に合わせて使用できる教育プログラムを入手しましたので、第三小学校と連携して来年度の道徳または学級活動での使用を研究してまいります。

また、文部科学省の調査では、小・中学校９年間で「仲間はずれ、無視、陰口」をされた経験があるとした子ども、した経験があるという子ども、ともに９割いるという結果が出ているそうです。子どもは、小さなトラブルを繰り返しながら人間関係づくりを学ぶという側面もありますので、上記「大人のいじめ対応姿勢５か条」を参考にして対応にご協力いただきたいと思います。心配なことがありましたら速やかに学校にお知らせ願います。校長以下、すべての職員が相談窓口です。

次年度の「愛情弁当の日」は？

１０月に実施した給食に関するアンケートへのご協力ありがとうございました。回収率は約６６％で、結果は次のとおりです。

「今年度と同じ」	３３．８％
「半分に減らす」	２３．７％
「増やす」	２．６％
「なくす」	３６．８％
「その他」	３．１％

現在のところ、学校としては次年度から「愛情弁当の日」をなくす方向で調整したいと考えております。決定ではありませんので、ご意見のある方は、教頭（春山）または栄養技師（川名）までお聞かせください。なお、行事等で給食が実施できないときの弁当は、これまでどおりです。

これからもご愛読を

三者相談の帰りがけに、数人のお母さんからこの学校だよりへの好意的な感想を伺いました。反応が返ってくるのは本当にうれしいものです。

連絡だけではなく、エピソードの記事になるよう心掛けて作成しています。もっと生徒との触れ合いが多くなるよう努力して、エピソード記事を増やしたいと思います。生徒にも読んでもらって、反応が返ってくるとうれしいな。

本校ホームページでもご覧いただけます。アドレスhttp://www.sukagawa.gr.fks.ed.jp/?page_id=196